

# 糖尿病の薬物療法 (経口血糖降下薬)について

糖尿病の治療は、食事療法・運動療法が基本です。健康的な食事と適度な運動を実践しても血糖コントロールがうまくいかない場合に、薬物療法が補助的に用いられます。薬物療法には注射製剤と経口血糖降下薬(飲み薬)がありますが、今回は経口血糖降下薬についてお話しします。

みなさんこんにちは。順天堂医院の篠原です。この連載を通じてみなさんに糖尿病に対する知識を深めていただければと思います。正しい知識を身につけて、長く健康を維持しましょう！ よろしくお話しします。



順天堂医院  
篠原舞

埼玉県出身。獨協医科大学医学部卒。順天堂医院初期臨床研修終了。順天堂医院糖尿病内分泌内科。日本内科学会認定医。

## さまざまな種類の 飲み薬がある



前回は糖尿病の注射製剤についてお話ししました。

今回は経口血糖降下薬についてです。さまざまな種類の飲み薬があり、少し専門的で難しい言葉もありますが、一緒にみていきましょう。

### ■スルホニル尿素薬(SU薬)

膵臓のβ(ベータ)細胞からのインスリン分泌が年齢や体質、長期にわたる糖尿病などにより減少してくると、血糖値は上昇してきます。SU薬はインスリンを作っているβ細胞に働いて、インスリンの分泌を高めることで、血糖値を下げるお薬です。インスリン分泌量の減少により血糖値が高くなっている方に処方されます。

### ■速効型インスリン分泌促進薬

SU薬と同様に膵臓に働いてインスリンの分泌を促すお薬です。このお薬は食事で大量に流れ込んだブドウ糖に対応するために必要なインスリンを素早く分泌させます。作用時間は短く、食事を食べる直前に内服することにより、食後の血糖値の上昇を抑えるお薬です。毎回の食事の直前に内服しなければ効果がありません。なお、SU薬とは効果が重なるので併用されません。

### ■α-グルコシダーゼ阻害薬

食べたものをゆっくりと消化吸収させることで、ブドウ糖の吸収を遅らせるお薬です。ブドウ糖の吸収を遅らせることで、健康な人よりも遅れて始まるインスリン分泌が間に合っって、両者のタイム

ングが一致することで食後の血糖値の上昇を緩やかにすることができず、副作用として低血糖が少ないお薬ですが、おなかや張ったり、おならが増えることがあります。この副作用は飲み続けるうちに軽くなる人が多いです。

### ■ビグアナイド薬

肝臓でブドウ糖が新たに作られるのを抑えるお薬です。また、腸から糖が吸収されるのを抑制したり、筋肉や肝臓での糖や脂肪の燃焼を促進し、インスリンの効果を高めるなどして血糖値を下げます。飲み始めや用量を増やした際には一時的に吐き気、下痢、便秘などが起こることがあります。症状が強い場合、乳酸アシドーシスという副作用の可能性ががあります。その際にはすぐに医療機関へご相談ください。また、腎臓、肝臓、心臓、肺などがひどく悪い場合や高齢の方には使えないこともあります。

### ■チアゾリジン薬

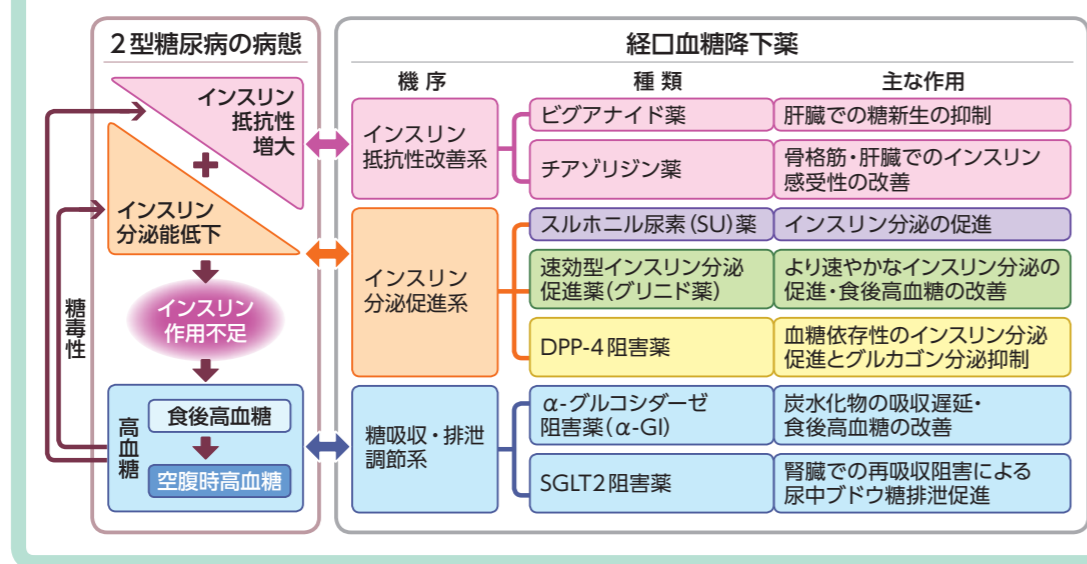
食べ過ぎなどにより大きくなった脂肪細胞は、インスリンの作用を減弱させる物質を分泌します。インスリンの作用が減弱すると血糖値は上昇してしまいます。このお薬は大きくなった脂肪細胞に作用し、脂肪細胞を小さく分裂させます。内臓脂肪の過剰な、肥満や過体重でインスリンが効きにくくなっている方に処方されます。副作用としてむくみが出やすいお薬です。むくみや不自然な体重増加に気づいたら、主治医に相談しましょう。



## 主治医に相談して適量に

いかがでしたでしょうか？「内服薬が多くて大変」「薬代がかさむ」などのお悩みを抱えている方は、ぜひ主治医の先生にご相談ください。飲み薬の数を減らすことができ、価格をおさえることができますよ。

## 病態に合わせた経口血糖降下薬の選択



### ■DPP-4阻害薬

口から食べ物を食べると、小腸からGLP-1というホルモンが分泌されます。このGLP-1は膵臓のβ細胞に作用して、より多くのインスリンを出すお手伝いをしてくれます。しかし、この

### ■合剤

合剤とは、2種類の異なった薬効を持った成分を、1つの薬の中に配合した医薬品のことをいいます。糖尿病薬だけでなく、さまざまな種類の薬で合剤が発売されており、現在、糖尿病薬では、ビグアナイド薬とチアゾリジン薬の合剤、SU薬とチアゾリジン薬の合剤、DPP-4阻害薬とSU薬とチアゾリジン薬の合剤、DPP-4阻害薬とビグアナイド薬の合剤、速効型インスリン分泌促進薬とα-グルコシダーゼ阻害薬の合剤、SGLT2阻害薬とDPP-4阻害薬の合剤など、さまざまな組み合わせの合剤があります。

## 教えて！ 舞先生



薬を飲み忘れてしまうことがあります。忘れないうためのいい方法はありますか？

薬は指示されたとおりに服用することが大切です。しかし、糖尿病のように自覚症状が少なく、しかも慢性的の病気は、薬の飲み忘れをしやすい病気でもあります。1回分ずつ小さな袋や入れ物に分けて身につけておくなどの工夫で、飲み忘れをできるだけ少なくしましょう。なお、実際に飲み忘れに気づいたときに2回分まとめて飲むようなことは、低血糖を起こす危険があるのでやめましょう。

★次回は「糖尿病患者さんのためのマウスケア」についてお話しします。